

題材	1 おんがくで ともだちと なかよくなるう			4月(7時間)
目標	遊びの様子を思い浮かべながら聴くとともに、曲想を感じ取って、歌い方や身体の動かし方を工夫しながら表現する。			
評価 規準	(①知・技)曲想から曲のイメージを思い浮かべ、声を揃えて歌ったり、音楽に合わせて身体を動かしたりしている。 (②思・判・表)遊びの様子を思い浮かべながら聴いたり、曲想に合わせて歌ったり身体を動かしたりすることについて思いを持っている。 (③主体的態度)友達と一緒に歌ったり身体を動かしたりして、音楽活動を楽しんでいる。			
教材	メッセージ 杉本竜一 作詞・作曲 ハ長調 4分の4拍子 P6・7 ロンドンばし/小犬のビンゴ/ティニクリン/エースオブダイヤモンド/とうしんドーイ【鑑】 P12・13 かくれんぼ 文部省唱歌 林柳波 作詞 下総皖一 作曲 陽旋法 4分の2拍子 P10・11			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『メッセージ』を歌ったり、身体を動かしたりしながら学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — 音楽で友達となかよくなるう	○音楽を通して友達と楽しく遊べることに気付けるように、音楽に合わせて友達と挨拶をしたり遊んだりする機会を設定する。	◇曲のイメージを思い浮かべ、歌ったり身体表現を楽しんだりしている。 <表現①②③>
追求する	1	○『ロンドンばし』『小犬のビンゴ』を、遊んでいる様子を想像しながら聴く。	○遊び方や動き方を想像できるように、それぞれの歌詞の様子を表した挿絵を提示する。	◇遊んでいる様子を想像しながら楽曲を聴いたり、友達と一緒に歌いながら遊んだりしている。 <発言・表現①②③>
	1	○『ロンドンばし』『小犬のビンゴ』を、工夫しながら遊ぶ。	○遊び方を工夫できるように、遊んでいる様子について思い浮かべたことを発表する時間を設定する。	◇曲に合う遊び方を考えて伝えたり、工夫した遊び方で遊んだりしている。 <表現②>
	2	○『ティニクリン』『エースオブダイヤモンド』『とうしんドーイ』を、体を動かしながら聴く。	○曲に合わせて楽しく体を動かせるように、遊んでいる様子がわかるイラストや写真を用意する。	◇曲想を基に、踊りの様子を思い浮かべて発言したり、曲に合わせて、楽しく体を動かしたりしている。 <表現③>
生かす	2	○『かくれんぼ』を、場面を思い浮かべながら、体を動かしたり、歌ったりする。	○遊んでいる場面を思い浮かべられるように、隠れる子と鬼に分かれて、歌いながら遊ぶ機会を設定する。	◇曲のイメージを思い浮かべ、友達と楽しく歌ったり体を動かしたりしている。 <表現①②③>
【備考】 ・『メッセージ』は常時活動として題材を通して扱うことも考えられる。 ・学習する音楽を形づくっている要素(太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素)：音色、リズム、拍、呼びかけとこたえ ・拡大譜、範唱CD、DVDを準備する。 ・系統：1年「うたで おどって なかよく なるう」				

音楽科 2年

題材	2 ひょうしの ちがいを みつけよう			5月(6時間)
目標	2拍子と3拍子の違いに気付き、拍子の違いを生かして体を動かしたり歌ったりすることができる。			
評価 規準	(①知・技)曲想と拍子やリズムの関わりに気付き、声を合わせて歌っている。 (②思・判・表)拍子の違いや拍子のまとまりを生かして、歌い方やリズムの叩き方を工夫することについて思いをもったり、拍子の違いによる音楽の特徴の違いを楽しみながら聴いたりしている。 (③主体的態度)拍子の違いに関心を持ち、友達と楽しく体を動かしながら拍を打ったり、拍に合わせて歌ったりしようとしている。			
教材	はしの上で／2びょうしてリズムあそび 久野静夫 日本語詞 フランス民謡 P14・15 たぬきのたいこ／3びょうしてリズムあそび 阪田寛夫 日本語詞 チェコ民謡 P16・17 ミッキーマウスマーチ／メヌエット 【鑑】 ジミードット 作曲／ペツォルト 作曲 P18・19			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『はしの上で』を体を動かしながら聴いたり歌ったりし、学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — 拍のまとまりを感じ取ろう	○曲の拍子に気付けるように、手拍子や足踏みをしながら曲を聞いたり小さな声で歌ったりする時間を設定する。	◇拍に関心を持ち、拍に合わせて体を動かしたり歌ったりすることについて思いをもって発言している。 <発言③>
追求する	1	○『はしの上で』を歌ったり、『2びょうしてリズムあそび』をしたりする。	○2拍子に合わせて、様々なリズムを楽しめるように、友達のリズム遊びを紹介する時間を設定する。	◇2拍子の拍のまとまりを意識し、2拍子を生かして体を動かしたり、リズムをつくったりしている。 <表現②>
	1	○『たぬきのたいこ』を歌う。	○2拍子と3拍子の違いに気付けるように、『はしの上で』と『たぬきのたいこ』を比較しながら手拍子をする時間を設定する。	◇3拍子の拍のまとまりに気付き、3拍子を生かして体を動かしたり、歌ったりしている。 <表現①>
	1	○『たぬきのたいこ』を歌ったり、『3びょうしてリズムあそび』をしたりする。	○3拍子に合わせて、様々なリズムを楽しめるように、友達のリズム遊びを紹介する時間を設定する。	◇3拍子の拍のまとまりを生かして歌ったり、リズムをつくったりしている。 <表現②>
生かす	2	○『ミッキーマウスマーチ』や『メヌエット』を拍のまとまりを感じ取りながら聴く。	○拍のまとまりに気付けるように、『はしの上で』や『たぬきのたいこ』の拍打ちと比較する時間を設定する。	◇2拍子と3拍子の拍のまとまりに気付き、拍に合わせて体を動かしながら聴いている。 <表現①②③>
【備考】 ・学習する音楽を形づくっている要素(太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素)：拍，リズム ・題材のつながり：1年「はくに のって あそぼう」				

題材	3 ドレミで あそぼう		5・6月(7時間)	
目標	音程を感じ取って、旋律の階名唱をしたり、キーボードで演奏したり、旋律づくりをしたりする。			
評価規準	(① 知・技)曲想と音程との関わりに気付き、旋律の階名唱をしたり、キーボードで演奏したり、旋律づくりをしたりしている。 (② 思・判・表)曲想を感じ取りながら音程を工夫し、演奏の仕方について思いをもったり、音楽づくりの発想を得たりしている。 (③ 主体的態度)曲想と音程との関わりや、声や身の回りの様々な音の特徴に興味をもって、進んで音楽表現をしている。			
教材	ドレミのうた ペギー葉山 作詞 リチャード ロジャーズ 作曲 ハ長調 4分の4拍子 P 2 0・2 1 かっこう 小林純一 作詞 ドイツ民謡 浦田健次郎 編曲 ハ長調 4分の4拍子 P 2 2・2 3 かえるのがっしょう 岡本敏明 作詞 ドイツ民謡 ハ長調 4分の4拍子 P 2 4・2 5 ぶっかりくじら 高木あきこ 作詞 長谷部匡俊 作曲 ハ長調 4分の4拍子 P 2 6・2 7			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『ドレミのうた』を聴いたり歌ったりして、学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — 音の高さを感じ取ってドレミで遊ぼう	○楽しみながら階名唱に取り組めるように、音階に合った体の動きを例示する。	◇音程に興味をもち、旋律に合わせて、手の高さを変えたり体の動きを伴ったりしながら歌っている。 <表現③>
追求する	1	○『かっこう』を階名唱したり、歌詞唱したりする。	○1フレーズ目と3フレーズ目のリズムの違いに気付けるように、リズム打ちをする時間を設定する。	◇曲想に合わせて正しい音程で歌うことについて思いをもち発言したり、音程を意識して歌ったりしている。 <表現②>
	1	○『かっこう』の旋律をキーボードで演奏する。	○正しいリズムでキーボードを演奏できるように、ペアの中で、キーボードを演奏する役割と、リズム打ちをする役割に分かれて演奏する時間を設定する。	◇正しいリズムでキーボードを演奏している。 <表現①>
	1	○『かえるのがっしょう』の階名唱をしたり歌詞唱をしたりする。	○旋律の階名唱をする際に音程に気を付けられるように、音階の階段を指で指し示しながら階名唱をする時間を設定する。	◇音程に気を付けて旋律の階名唱をしたり、歌詞唱をしたりしている。 <表現①>
	1	○『かえるのがっしょう』の旋律をキーボードで演奏したり、輪奏をしたりする。	○運指に気を付けながらキーボードで演奏できるように、ポジション移動をする箇所の楽譜に印を付け、その部分だけ取り出して演奏する時間を設定する。	◇運指に気を付けて旋律をキーボードで演奏や輪奏をしている。 <表現①>
	1	○『かっこう』と『かえるのがっしょう』を歌ったり、キーボードで演奏したりする。	○旋律の階名唱をしたり、キーボードで演奏したりできるように、階名を書いた拡大譜や拡大鍵盤ハーモニカを提示する。	◇旋律の階名唱をしたり、キーボードで演奏したりしている。 <表現①>
・まとめる ・生かす	1	○『ぶっかりくじら』を歌と楽器を合わせて演奏したり、最後の2小節の旋律をつくったりする。	○自分の表したい旋律を考えられるように、『ドレミの歌』で学習した旋律の形の種類やそこから生まれる曲想を見返す時間を設定する。	◇曲想を感じ取りながら、自分の表したい旋律の形や音を選んで旋律をつくっている。 <表現・記述①②③>
【備考】 ・拡大譜、拡大鍵盤ハーモニカ図を準備する。 ・ドレミ体操、階名、指番号(運指)、五線や音符といった発展的な内容の指導も行う。 ・よりどころとなる音楽を形づくっている要素(太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素)：音階、 旋律 ・題材のつながり：1年「どれみと なかよく なるう」				

題材	4 いろいろな がっきの 音を さがそう			6・7月(4時間)
目標	楽器の音色や響きの違いを感じ取って聴いたり、楽器の音色や響きを感じ取りながら音の出し方や組み合わせ方を工夫して演奏したりする。			
評価 規準	(① 知・技)曲想と楽器の音色や響きの関わりに気付き、音の出し方に気を付けながら、簡易打楽器や手作り楽器等を演奏している。 (② 思・判・表)楽器の音色や響きの違いを感じ取って、音の出し方や組み合わせ方を工夫して表現することについて思いをもったり、いろいろな楽器の音色の違いを感じ取りながら聴いたりしている。 (② 主体的態度)様々な音の響きに関心をもって聴いたり、様々な音を探したりしようとしている。			
教材	だがっき パーティー【鑑】 長谷部匡俊 作曲 P44・45 がっきで おはなし P46・47 かぼちゃ 桑原ほなみ 作詞 黒沢吉徳 作曲 ハ長調 4分の4拍子 P48・49			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であ う	1	○『だがっき パーティー』を聴いたり、いろいろな楽器の音色を聴き比べたりして、学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — いろいろな音を聴いて、きれいな音を探そう	○いろいろな楽器の音色や響きの違いを感じ取りながら聴けるように、聴こえてきた音色を言葉や図で表したものを整理して板書する。	◇いろいろな楽器の音色や響きの違いを感じ取りながら聴いている。 <発言・記述②>
追 求 す る	1	○いろいろな打楽器の中から好きな音色の楽器を見付けて、音の出し方を工夫する。	○楽器の音色や響きの違いを感じ取りながら、打楽器の音の出し方を工夫できるように、いろいろな打楽器の音色や奏法を試す場を設定する。	◇楽器の音色や響きの違いを感じ取りながら、打楽器の音の出し方を工夫している。 <表現②>
	1	○気に入った音色の楽器を使い、『がっきで おはなし』を演奏する。	○リズムの組み合わせ方の違いによる曲の感じの違いに気付けるように、簡単なリズムパターンを複数用意する。	◇音の出し方に気を付けながら、簡易打楽器を演奏している。 <表現①>
生 ま か と す め る ・	1	○『かぼちゃ』を簡易打楽器を組み合わせながら演奏する。	○楽器の音色や響きの違いを感じ取って、楽器の組み合わせを工夫できるように、演奏する順番を入れ替えて試行する時間を設定する。	◇音色の違いを感じ取り、楽器の組み合わせを工夫しながら、楽しく演奏している。 <表現①②③>
【備考】 ・簡易打楽器(手作り打楽器)を扱う際には、材料の用意を学年通信等で連絡するよう2学年部に依頼する。 ・よりどころとなる音楽を形づくっている要素(太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素)： 音色 、リズム、音の重なり、呼びかけとこたえ ・題材のつながり：1年「がっきと なかよく なるう」				

題材	5 せいかつの 中に ある 音			9・10月(4時間)
目標	身の回りの音の特徴に気付き、音色を生かして音楽をつくりたり歌ったりする。			
評価 規準	(① 知・技)身の回りの音の特徴に気付き、即興的に声で表現したり、音の重ね方に気を付けながら反復を用いて音楽をつくりたりしている。 (③ 思・判・表)身の回りの音の音色を生かし、声のつなげ方や重ね方、反復の仕方を工夫して音楽をつくることについて思いをもっている。 (④ 主体的態度)身の回りの音を探し、それらの音を声で表現したり友達と協力して音楽をつくりたりする学習に楽しく取り組もうとしている。			
教材	さがしてあそぼう P28・29 虫のこえ 文部省唱歌 ハ長調 4分の2拍子 P30・31			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『さがしてあそぼう』のいろいろなところで聴こえる音や鳴き声を声で表しながら、学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — 生活の中にある音を楽しもう	○身の回りにおけるいろいろな音や鳴き声に気付けるように、見付けた音と場所を記す音探しノートを用意する。	◇身の回りにおけるいろいろな音や鳴き声に気付き、紹介している。 <発言①②③>
追求する	1 1	○『さがしてあそぼう』をグループごとに音を組合わせて音楽をつくる。 ○『虫のこえ』を聴いたり歌ったりする。	○音や鳴き声の様々な組み合わせ方に気付けるように、反復や変化のある音楽について例示する。 ○曲に登場する虫のイメージをもてるように、虫の写真や鳴き声の音声を用意する。	◇身の回りにおけるいろいろな音や鳴き声を組合わせて音楽をつくらせている。 <表現②> ◇虫の声を生かして歌うことについて思いをもち、発言したり表現に生かしたりしている。 <発言・表現②>
生かす まとめる	1	○『虫の声』を工夫しながら歌う。	○声の出し方を工夫できるように、虫の鳴き声の音声に合わせて、鳴き方を真似する機会を設定する。	◇身の回りの虫の声の出し方に気付き、歌詞に合わせて歌い方を工夫して歌っている。 <表現①②③>
【備考】 ・夏休み中に音探しをしておくように、1学期中に伝えておくことよ。 ・学習する音楽を形づくっている要素(太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素)：音色 ・題材のつながり：1年「みの まわりの おとに みみを すまそう」				

題材	6 リズムを かさねて たのしもう			9・10月(10時間)
目標	拍を意識しながら、演奏の仕方を工夫したり、聴いたり演奏したりする。			
評価 規準	(①知・技)拍子の特徴を感じ取って、拍を意識しながら、リズムを打ったり、歌ったり演奏したりしている。 (②思・判・表)拍子の特徴を感じ取って、拍を意識したリズムの打ち方や演奏の仕方を工夫している。 (③主体的態度)拍子の特徴に興味をもち、拍を意識しながら、歌ったり演奏したり、リズム伴奏をしたりする学習に進んで取り組んでいる。			
教材	この空とぼう 海野洋司 作詞 鹿谷美緒子 作曲 ハ長調 4分の2拍子 P32・33 いるかは ざんぶらこ 東龍男 作詞 若松正司 作曲 ト長調 4分の3拍子 P34・35 山のポルカ 芙蓉明子 作詞 チェコ民謡 飯沼信義 編曲 ハ長調 4分の2拍子			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『この空とぼう』を歌い、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて 拍を意識しながら、歌ったり演奏したりしよう	○2拍子の強拍の特徴を感じ取れるように、手拍子や膝打ちなどで強拍と弱拍を分担して演奏する時間を設定する。	◇2拍子の特徴を感じ取って、拍を意識しながら歌っている。 <表現①>
追求する	1	○『この空とぼう』を、打楽器でリズム伴奏をしながら歌う。	○2拍子の特徴を感じ取り、リズム伴奏を工夫できるように、曲の終わりのリズムを試行する時間を設定する。	◇2拍子の特徴を感じ取って、リズム伴奏を工夫している。 <表現②>
	2	○『いるかはざんぶらこ』を歌う。	○3拍子の強拍の特徴を感じ取れるように、手拍子や膝打ちなどで強拍と弱拍を分担して演奏する時間を設定する。	◇3拍子の特徴を感じ取って、拍を意識しながら歌っている。 <表現①>
	1	○『いるかはざんぶらこ』を、打楽器でリズム伴奏をしながら歌う。	○3拍子の強拍と弱拍の違いに気を付けながらリズム伴奏を工夫できるように、拍の強さに合った打楽器の組合せを試行する時間を設定する。	◇3拍子の強拍と弱拍の違いに気を付けながら、リズム伴奏を工夫している。 <表現②>
	1	○『山のポルカ』を、打楽器でリズム伴奏をしながら歌う。	○2拍子の特徴を感じ取って、リズム伴奏を工夫できるように、使用する打楽器の強弱を試行する時間を設定する。	◇2拍子の特徴を感じ取って、リズム伴奏を工夫している。 <表現②>
	2	○『山のポルカ』を、鍵盤ハーモニカで演奏する。	○2拍子の拍に乗りながら鍵盤ハーモニカを演奏できるように、指番号や運指を確認する時間を設定する。	◇2拍子の特徴を感じ取り、拍を意識しながら鍵盤ハーモニカを演奏している。 <表現①>
生まとすめる・	2	○『この空とぼう』、『いるかはざんぶらこ』と『山のポルカ』を、リズム伴奏をしながら歌ったり、合奏したりする。	○2曲の強拍の位置を感じながら歌ったり合奏したりすることができるように、2曲を強拍の位置で手を叩きながら、交互に演奏する時間を設定する。	◇2拍子と3拍子の強拍に気を付け、拍を意識しながら歌ったり、鍵盤ハーモニカで演奏したりしている。 <表現①②③>
【備考】 ・よりどころとなる音楽を形づくっている要素(太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素)：リズム、旋律、音の重なり、拍 ・題材のつながり：1年「リズムをたのしもう」				

題材	7 くりかえしを見つけよう			10・11月(6時間)
目標	反復の音楽の仕組みを用いて、短いリズムフレーズをつくったり、工夫して歌ったりする。			
評価 規準	(① 知・技)曲想と反復の音楽の仕組みの関わりに気づき、それを用いて短いリズムフレーズをつくったり、歌ったりしている。 (② 思・判・表)反復の音楽の仕組みを用いて、歌い方やリズムの組合せを工夫したり、反復のよさや面白さを感じ取りながら聴いたりしている。 (③主体的態度)反復の音楽の仕組みに関心をもって、意欲的に音楽活動に取り組もうとしている。			
教材	かねがなる 勝承夫 作詞 フランス民謡 ヘ長調 4分の4拍子 P38・39 おまつりの音楽 P40・41 トルコこうしんきょく【鑑】 ベートーベン作曲 ハ長調 4分の2拍子 P42・43			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であ う	1	○『かねがなる』を歌い、学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — 旋律の繰り返しに気を付けて、歌ったりリズムをつくったり聴いたりしよう	○反復の音楽の仕組みに関心をもてるように、旋律を線で表した図を黒板に掲示する。	◇反復の音楽の仕組みのよさや面白さについて発言したり、記述したりしている。 <表現・記述③>
追 求 す る	1 2 1	○『かねがなる』を歌う。 ○反復の音楽の仕組みを用いて、『おまつりの音楽』をつくる。 ○つくった『おまつりの音楽』を発表する。	○旋律が反復することによって生み出される曲想に気付けるように、旋律を反復する演奏としない演奏を聴き比べる時間を設定する。 ○反復の音楽の仕組みを用いて、短いリズムフレーズをつくれるように、リズムごとに色分けをしたリズムカードを黒板に掲示する。 ○曲想と反復の音楽の仕組みとのつながりに気付けるように、繰り返している部分や印象の違いを伝え合う時間を設定する。	◇曲想と反復の音楽の仕組みとのつながりについて発言したり、記述したりしている。 <表現・記述①> ◇同じリズムを2回以上用いて、自分のお祭りのイメージに合ったリズムの組合せでリズムフレーズをつくっている。 <記述②> ◇お祭りのイメージとつくったリズムフレーズとのつながりについて発言したり、記述したりしている。 <表現・記述①>
生 ま と め る ・	1	○『トルコこうしんきょく』を聴く。	○反復の音楽の仕組みの働きを感じ取れるように、曲を聴いた時に感じた感想をまとめる模造紙を用意する。	◇反復の音楽の仕組みに気づき、反復のよさや面白さを発言したり、記述したりしている。 <発言・記述①②③>
【備考】				
・プログラミング教育と関連を図る。 使用教材や形態：スクラッチ、タブレットPCを2人で使用 活動内容：ループのブロックを用いながら、反復の音楽の仕組みを用いてリズムフレーズをつくる。				
・学習する音楽を形づくっている要素(太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素)：反復，リズム，旋律				

音楽科 2年

題材	8 みんなで あわせて 楽しもう			11・12月(8時間)
目標	声や楽器の重なる響きを感じ取り、声や楽器の重ね方を工夫しながら、拍の流れに乗って表現したり、楽器の重なる響きのよさや面白さを味わって聴いたりする。			
評価 規準	(① 知・技)声や楽器の重なる響きを感じ取り、響きを生かして、拍の流れに乗って歌ったり演奏したりしている。 (③ 思・判・表)声や楽器の重ね方や奏法を工夫したり、楽器の重なる響きのよさや面白さを味わって聴いたりしている。 (③主体的態度)声や楽器の重なる響きに関心をもって、進んで聴いたり演奏したりしようとしている。			
教材	エンターテイナー【鑑】 スコット ジョプリン 作曲 宮川彬良 2分の2拍子 P66・67 楽しいね 山内佳鶴子 作詞 寺島尚彦 作曲 へ長調 4分の4拍子 P62・63 こぐまの二月 平井多美子 作詞 市川都志春 作曲 ハ長調 4分の4拍子 P64・65			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『エンターテイナー』を聴いて、学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — 旋律の繰り返しに気を付けて、歌ったりリズムをつくったり聴いたりしよう	○曲想と音色の関わり気付けするように、鈴やウッドブロックの音に合わせて馬ぞりの動きを考える時間を設定する。	◇音楽に合わせてペープサートや体の動きを変えながら、馬ぞりが走る様子や音色との関わりについて気付き、記述したり発言したりしている。 <記述・発言③>
追求する	1	○『楽しいね』を、歌詞の様子を思い浮かべながら歌う。	○1～3番の海の様子と曲想のつながりに興味をもてるように、歌詞の共通点を見付けたり、相違点を比較したりしながら、歌詞に合った様々な表情で歌う時間を設定する。	◇曲想と歌詞の表す様子や気持ちとの関わりに興味をもち、歌っている。 <表現・記述③>
	1	○『楽しいね』を、曲想に合った歌い方で歌う。	○声の出し方や強弱の工夫を生かして歌えるように、時間の変化による海や波の様子や、その際の気持ちをまとめた模造紙を黒板に掲示する。	◇海の様子や気持ちを想像しながら、声の出し方や強弱の工夫を生かして歌っている。 <表現・記述①>
	1	○『こぐまの二月』を歌ったり、鍵盤ハーモニカで演奏したりする。	○拍の流れを感じ取れるように、ペアで手拍子をする児童と演奏する児童に分かれて演奏する時間を設定する。	◇拍の流れに乗って歌ったり鍵盤ハーモニカを演奏したりしている。 <表現①>
	2	○『こぐまの二月』の主旋律と副次的な旋律を鍵盤ハーモニカで演奏する。	○主旋律と副旋律のリズムの違いに気付けするように、手拍子に合わせて階名で歌う時間を設定する。	◇主旋律と副旋律を、拍の流れに乗りながら、正しいリズムで演奏している。 <表現①>
1	○『こぐまの二月』を音の重ね方を工夫しながら、歌と鍵盤ハーモニカで合奏をする。	○声と楽器の重ね方を試行できるように、小グループで演奏しながら重ね方を考え、お互いに聴き合う時間を設定する。	◇声や楽器の重なる響きを味わい、重ね方を工夫している。 <記述・表現②>	
生まとすめる・	1	○『楽しいね』を合唱したり、『こぐまの二月』を合奏したりする。	○声や楽器の音色や響きを生かして、拍の流れに乗って合奏できたことを実感できるように、学級を2つに分け、お互いの演奏を聴き合う時間を設定する。	◇声や楽器の音色や響きを生かして、拍の流れに乗って歌ったり演奏したりしている。 <表現①②③>
【備考】 ・場面絵、拡大譜、範唱CD、DVD、ペープサートを準備する。 ・学習する音楽を形づくっている要素(太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素)：音色、旋律、音の重なり、反復、呼びかけとこたえ ・題材のつながり：1年「みんなで おとを あわせよう」				

題材	9 おんがくしゅうかいをしよう			1・2月(6時間)
目標	曲調や歌詞から曲想を感じ取り、自分の声の、音色や強弱を工夫して音を合わせて歌っている。			
評価 規準	(① 知・技)自分の声の音色に気を付けたり、強弱を生かしたりしながら音を合わせて歌っている。 (② 思・判・表)曲調や歌詞から曲想を感じ取り、自分の声の音色や強弱を工夫している。 (④ 主体的態度)それぞれの曲想を楽しみ、進んで音を合わせて歌おうとしている。			
教材	学年選択曲			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であ う	1	○昨年度の音楽集会の動画を観て、学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — 友達と声を合わせて歌おう	○曲想を感じ取れるように、情景に合った写真や拡大歌詞を用意する。	◇それぞれの曲想を感じ取り、進んで歌っている。 <発言, 表現③>
追 求 す る	1 1 2	○『学年選択曲』の旋律を歌う。 ○『学年選択曲』の主旋律・副次的な旋律を歌う。 ○『学年選択曲』を声を合わせて歌う。	○曲想に合った声の音色で表現できるように、体を動かしながら歌う時間を設定する。 ○声を合わせて歌うことができるように、それぞれの旋律ごとに集まって演奏する場を設定する。 ○曲想にあった音色や強弱を工夫できるように、小グループで試行し共有する時間を設定する。	◇曲想を楽しみながら、歌っている。 <記述・表現③> ◇同じ旋律を演奏する友達と、声を合わせて演奏している。 <表現①> ◇自分の声の音色や強弱を工夫している。 <記述, 表現②>
生 ま と め す る	1	○学習発表会で『学年選択曲』を発表する。	○曲想を感じ取りながら友達と音を合わせて演奏できるようになったことを実感できるように、保護者や他学級の児童へ発表する機会を設定する。	◇曲想を感じ取り、友達と音を合わせて楽しく演奏している。 <表現①②③>
	【備考】 ・情景に合う写真, 拡大譜, 拡大歌詞, 範唱CDを準備する。 ・学習する音楽を形づくっている要素(太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素): 音の重なり , 音色, 強弱 ・『みんなであわせよう』の題材と関連付けて行うとよい。 ・題材のつながり: 1年「みんなで おとを あわせよう」 2年「おんがくしゅうかいをしよう」			

題材	10 そうぞうを ふくらませよう		2・3月(7時間)	
目標	曲想を感じ取りながら、曲全体を味わって聴いたり、様子や気持ちを想像して歌ったり演奏したりする。			
評価規準	(①知・技)曲想や登場人物の気持ちや様子や歌詞の表す様子、音色や速度などとの関わりに気付いている。 自分の声や楽器の音色に気を付けて表現する技能を身に付けている。 (②思・判・表)曲想と歌詞の表す様子、音色や速度などとの関わりを考え、歌い方や演奏の仕方について思いをもったり、曲や演奏のよさや面白さを見いだしながら曲全体を味わって聴いたりする。 (③主体的態度)曲想と歌詞の表す様子や気持ちとの関わりに興味をもち、聴いたり演奏したりする学習に進んで取り組もうとしている。			
教材	あのね、のねずみは 春畑セロリ 作詞/作曲 ハ長調 4分の4拍子 P50・51 卵の殻をつけたひなどりのバレエ ムゾルグスキー 作曲/ラベル 編曲 ヘ長調 4分の2拍子 P52・53 タやけこやけ 中村雨紅 作詞 草川信 作曲 ハ長調 4分の2拍子 P54・55 小ぎつね 勝承夫 訳詞 ドイツ民謡 ハ長調 4分の2拍子 p56			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『あのね、のねずみは』を、歌詞の表す様子を想像しながら歌い、学習のめあてをつかむ。 学習のめあて 音楽から様子を思いうかべよう	○曲想や登場人物の様子と歌詞や音色との関わりに気付けるように、動物ごとの性格や様子、様子を表す歌い方を整理して黒板にまとめる。	◇歌詞の表す情景や気持ちが伝わるような歌い方に興味・関心をもち、歌詞に合わせて自分の歌声を変えて歌っている。 <記述・発言①②③>
追求する	1	○『卵の殻をつけたひなどりのバレエ』を、曲の表す様子を思い浮かべながら、曲や演奏の楽しさを見いだして聴く。	○音色だけでなく速度が生み出す曲の面白さを感じ取れるように、音楽に合わせて体を動かしながら聴く時間を設定する。	◇曲に合わせて体を動かしながら、音色や速度などを聴き取り、それらの働きの生み出すよさや面白さについて記述したり、発言したりしている。 <表現・記述②>
	1	○『タやけこやけ』の曲想を感じ取りながら、場面の様子に合った歌い方を工夫する。	○場面の様子に合った強弱で歌えるように、強弱記号を楽譜に記入し、歌い方を試行する時間を設定する。	◇場面の様子を思い浮かべ、強弱を工夫して歌っている。 <表現②>
	1	○『タやけこやけ』を場面の様子に合った歌い方で歌う。	○気持ちを込めて表情豊かに、声を合わせて歌えるように、歌詞の様子を表す写真を見ながら歌う時間を設定する。	◇気持ちを込めて表情豊かに、声を合わせて歌っている。 <表現①>
	2	○『小ぎつね』を、曲想に合った演奏の仕方 で鍵盤ハーモニカを演奏する。	○1～3番の場面の違いを出して演奏できるように、小ぎつねの様子に合わせて、音色や速度を変えて弾き比べる時間を設定する。	◇小ぎつねの様子や気持ち、季節の移り変わりを想像し、タンギングの息の強さや速度を変えて鍵盤ハーモニカを演奏している。 <表現・記述①>
まどめる・	1	○『小ぎつね』を、様子を思い浮かべながら音を合わせて演奏する。	○登場人物の様子などと表現の工夫とのつながりを実感できるように、登場人物のイメージと演奏を併せて発表する時間を設定する。	◇音色や強弱と、登場人物の様子や気持ち、曲想とのつながりについて発言したり記述したりしている。 <表現・記述①②③>
【備考】 ・よりどころとなる音楽を形づくっている要素(太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素)： 音色 ，速度，呼びかけとこたえ ・題材のつながり：1年「ようすを おもいうかべよう」				

題材	11 日本のうたでつながろう			2・3月(5時間)
目標	わらべうたの旋律の特徴に気付き、わらべうたのよさを見だしながら聴いたり、遊んだり、旋律づくりをしたりする。			
評価規準	(①知・技)わらべうたの旋律の特徴などに気付き、拍にのって体を動かしながら声を合わせて歌ったり即興的に音を選んで伴奏をつくったりしている。 (②思・判・表)わらべうたの旋律の特徴から、そのよさや楽しさを見だして聴いたり、歌い方や遊び方について思いをもっている。 (③主体的態度)遊び方を知ったわらべうたを聴きながら遊んだり、友達と一緒に伴奏をつくって表現したりする学習に楽しく取り組もうとしている。			
教材	ずいずいっころばし わらべうた P58 あんたがたどこさ わらべうた P59 なべなべそこぬけ わらべうた P59 ばんそうあそび P60			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)> ※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○『ずいずいっころばし』や『あんたがたどこさ』で遊び、学習のめあてをつかむ。 — 学習のめあて — 日本の歌に親しもう	○わらべうたの楽しさに気付けるように、体の動きを付けて遊べる場を設定する。	◇わらべうたの旋律に関心を持ち、進んで歌ったり遊んだりしている。 <表現①②③>
追求する	1	○『あんたがたどこさ』で遊ぶ。	○わらべうたの歌い方を工夫できるように、遊び方を自由に考える時間を設定する。	◇わらべ歌の特徴を生かして遊ぶことについて思いを持ち、遊び方について伝えたり工夫して遊んだりしている。 <発言・表現②>
	1	○『なべなべそこぬけ』で遊ぶ。	○人数を変えることで楽しさや難しさが変わること気付けるように、様々な人数のグループで遊ぶ機会を設定する。	◇わらべうたの特徴に気付き、拍にのって体を動かしたり歌の雰囲気を楽しんだりしながら遊んでいる。 <発言・表現①>
	1	○『ばんそうあそび』で伴奏をつくって遊ぶ。	○伴奏をつくるための発想を得られるように、音を即興的に組み合わせる機会を設定する。	◇わらべうたの伴奏を作ることについての思いを持ち、発言したり記述したりしている。 <発言・記述②>
生かす	1	○『なべなべそこぬけ』に伴奏を合わせて演奏する。	○曲に合う伴奏を考えられるように、つくった伴奏をペアで紹介し合う時間を設定する。	◇わらべ歌の旋律の特徴を生かして伴奏の旋律をつくったり友達と楽しく遊んだりしている。 <表現①②③>
【備考】				
・学習する音楽を形づくっている要素(太字はよりどころとなる音楽を形づくっている要素)：音色，速度 ・題材のつながり：1年「にほんのうたをたのしもう」				